

市民しんぶん山科区版



2023

7月15日号

やましな

今月号の
題字

中村 春美さん(大宅学区)



※ダウンロードは無料。
通信料は利用者負担。

山科の農業特集

～旬の地元野菜を食べよう～

豊かな自然に恵まれた山科では、美味しい野菜や果物がたくさん穫れます。
近所の直売所をのぞいてみたり、スーパーで地元の野菜を探してみたり、
いつもより少しだけ意識して地元の食材を選んでみませんか♪

旬の野菜のGOODポイント

- ★栄養価が高い
- ★その野菜の生育に合った季節に栽培されるので、農薬等も少なく、環境にも優しい
- ★安定して穫れるので、価格も安定

地元の野菜のGOODポイント

- ★穫れたての新鮮な野菜が手に入る
- ★生産者の顔が見えるので安心
- ★地元の農業や伝統に触れることができる

林 光男
さん



直売所「はいから園」も営む林さん。
学校での授業などを通して地域とも深く関わられています。

生産者さんに聞きました!

山科の農業を守っていくためには、昔からの方法にとらわれず、環境に合わせて新しいことに挑戦すること、そして消費者の方を巻き込んでいくことも必要だと思っています。地域の方との関わりの中で、消費者の方が求めていることを聞きながら、生産者の想いも伝えていきたいです。

丁寧に土をならしてから、
山科なすを植えました!



林さんの指導の下、大宅小学校3年生の授業で山科なすの植え付けが行われ、子どもたちは実際に土に触れながら地域の農業について学ぶことができました。

コラム 山科の伝統野菜

～山科なす～

山科一帯で古くから栽培されてきた“京の伝統野菜”です。左京区で栽培されていた「もぎなす」を大型に改良したものといわれています。

卵形で、皮は薄く、水分が多くて果肉が緻密なのが特徴です。煮物にすると味がしみ込み、とても美味しいです。

もてなすくんの
モデルの野菜だよ

丸いフォルムが
とっても可愛い!



生産者さんに聞きました!

実は、農地を守ることに、食糧問題を解決するだけでなく、災害時に防災の拠点となるなど、地域を守る多面的な機能があります。

人との繋がりが地域で農業をするうえでの一番の財産です。振り売りを通して、地域の野菜、農業のファンになってもらい、地元野菜の良さを伝えていきたいです。



「振り売り」とは?

平安時代から続く、店舗を持たずに売り歩く形式の販売方法で、かつては山科でも盛んに行われていました。現在でも時代に合わせて形を変えながら受け継がれており、野菜を届けるだけでなく、ご近所さんが集まる機会になるなど、地域のコミュニティを繋ぐ役割も果たしています。

問合せ 区企画担当(☎592-3066)
南部農業振興センター(☎585-3202)

山科区には自動販売形式の直売所がたくさんあります。
ご自宅の周りもぜひ探してみてください。



直売所では、生産者さんが直接販売しているので、新鮮な地元の野菜等を安く入手することができます!



山科区の
直売所情報

渡邊 幸浩
さん



山科区で農業を営みながら、京都府農協青壮年組織協議会の役員としても活躍されています。